

No. 126

June 1999

# 甲虫ニュース COLEOPTERISTS' NEWS

日本産ハナノミ科ハナノミ族概説<sup>3)</sup>

高 桑 正 敏

ヤクハナノミ属 *Yakuhananomia* Kôno

Kôno, 1935, Trans. Sapporo nat. Hist. Soc., 14: 124 (type species: *Tomoxia yakui* Kôno, 1930).

体は頑強、複眼は無毛、触角は非常に短くて頭部幅以下、第5-10節は強い鋸歯状、小あごひげの末端節は外縁の長い斧状ないし円形、小楯板は端のえぐられた四角形~台形、鞘翅の肩部とその後方付近は横に段刻状、尾節板は太短く、その端の切断面は長円形~横長の楕円形、各肢は短く、前・中跗節の末端節は2葉状。雄交尾器は小さく、左辺はへら状、右辺は小さくて膜質突起 (submembranous dorsal branch) は発達しない。極東~インドシナ、熱帯アフリカ、南北アメリカから計9種が知られている他、スマトラからも本属の種が発見されている (ERMISCH, 1950) という。かなり異なる分布パターンに思えるが、雄交尾器をはじめとしていくつもの共通の特徴を示しており、背面の斑紋パターンも非常によく似ている。最近、FRANCISCOLO (1998) により世界のこの属がまとめられ、これらの形態的類似性は収斂の結果であり、南北アメリカとアフリカの種は別属に含めるべき (これらは頬がほとんど認められない点でアジアのものとは異なるという) だと述べている。筆者もアフリカ産の1種を見た限りではその意見に賛成するもの、北アメリカ産は幅広い頬をもつなど明らかにアジアの種により近い。

成虫は訪花習性をもたない。幼虫は北アメリカの種と極東ロシアでのヤクハナノミで知られており、

いずれも落葉広葉樹の枯れ木にて育つことが報告されている。

日本産は2種が知られていたが、同種であろうことが判明したので、ここで1種と見なすことにした。

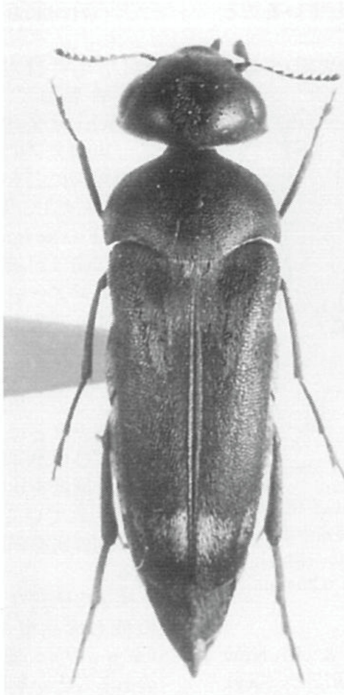


図1. ヤクハナノミ黒化型 *Yakuhananomia yakui* (Kôno), ♂, black form (= a paratype of *Y. tsuyukii* TAKAKUWA).

ヤクハナノミ *Yakuhananomia yakui* (Kôno)

*Tomoxia yakui* Kôno, 1930, Ins. matsum., 4: 104.

*Yakuhananomia tsuyukii* TAKAKUWA, 1978, Elytra, Tokyo, 6: 5, Figs. 1-2. (Syn. nov.)

体長7-10 mm, 雄は大部分の雌より一見して小さい。体はきわめて厚く、頭頂前には小さな窪みを持ち、複眼横の頬は非常に幅広く、尾節板は厚くてその端切断面は円~長円形で中央上部に1つの顕著な小突起を備える。形態の変異がかなりあり、とくに背面の金~白黄色紋は雌でふつう発達する一方、雄では濃色となって退行が著しく、ときに鞘翅中央の帯はまったく消失する (図1)。地域差も認められるようで、福島県いわき市産は黒化傾向が顕著であるが、長野県産は雄でも黒化傾向はそれほどめだたず、北海道産の雌は前胸背板の中央1対の縦条が完全に消失する個体を含む。従来福島県いわき市と山梨県大月市のはイワキヤクハナノミとされ、北海道からもその種として記録されたことがあるが、今回北海

道産の雄個体を含む日本産本属の標本を再検討したところ、北海道産と本州産では雄交尾器などにわずかな違いが認められるものの、日本産はヤクハナノ

<sup>3)</sup> TAKAKUWA, M., Notes on the tribe Mordellini (Coleoptera, Mordellidae) of Japan, 3.

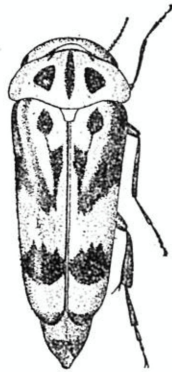


図2. ヤクハナノミ *Yakuhananomia yakui* (Kôno), [♀] (河野, 1936).

ミ1種に整理するべきであるという結論を得た。なお、ヤクハナノミのタイプ標本は原記載では雄となっているが、雌の誤りである。

長野県松本市では各地でケヤキ古木の周辺の葉上に静止中の個体がよく得られているものの、それ以外での採集例は非常に少なく、イワキヤクハナノミとして記録された上記の他には、北海道札幌、網走支庁生田原・丸瀬布、長野県遠山川本谷・飯田市天竜峡で記録があるにすぎない。幼虫の寄主植物としては極東ロシア

アでニレが報告されているほか、菊部幸世氏は松本市でケヤキの腐朽部中より本種成虫の死骸を確認している(未発表)ので、ケヤキも利用していることは確実である。

分布: 北海道 [基準産地], 本州 (中央部); ロシア (沿海州), 中国 (Chansi).

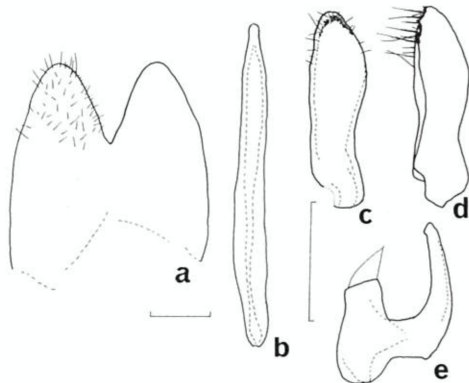


図3. ヤクハナノミ *Yakuhananomia yakui* (Kôno), ♂ (北海道産). a: 第8腹板, b: 交尾器中葉片, c: 交尾器側葉片 (左; 腹面), d: ditto (側面), e: 交尾器側葉片 (右; 腹面). Scales: 0.25 mm.

オビハナノミ属 *Glipa* LeConte

LeConte, 1859, Col. of Kansas & E. New Mexico, p. 17 (type species: *Mordella hilaris* Say).

ハナノミ科としては中〜大形種から成り、鞘翅にはふつう基部紋のほか、基部後方〜中央辺に白〜金色の帯紋あるいは環状紋、さらに後方〜端にも帯紋をもつ。小あごひげは二等辺三角形形状、複眼にはふつう多少とも細毛を備え、尾節板は前属のように太短いものから非常に細長いものまで変化が大きく、前・中跗節の末端節は広がって2葉状、後脛節の上部には長い縦の刻状が認められる。雄交尾器は発達して強固、側葉片の左片は中央〜中央前で顕著に分



図4. ヤクハナノミ *Yakuhananomia yakui* (Kôno) の日本における分布.

枝し、右片は左片とほぼ同長またはわずかに長い、やや短く、その付属枝 (sclerotized ventral branch) は発達して先端はしばしば複雑にねじれる。東南アジアとアフリカを中心として世界の熱帯〜亜熱帯に広く分布し、現在は3亜属に整理されている。ただし、少なくともそのうちの1亜属 *Macroglipa* FRANCISCOLO は多様な群で構成されており、近縁な属 (旧熱帯の *Glipidiomorpha* FRANCISCOLO, 東南アジア〜ニューギニアの *Cephaloglipa* FRANCISCOLO, アフリカの *Ophthalmoglipa* FRANCISCOLO) を含め、属ないし亜属レベルの再検討を必要とする。また、この群はハナノミ族にあっては小あごひげが二等辺三角形形状な点で区別しやすいが、中・北アメリカなどには外見上は本群のようであっても、小あごひげが斧状の種もある。北アメリカのハナノミの交尾器を比較検討した Lu et al. (1997) も、本属とされている種の中には交尾器の顕著な違いから、別の属を創設してそれに移すべきだと示唆している。

採集の困難なグループとして知られ、かつてはどの種も珍品視されてきたが、自然林の林内空間 (ギャップ) の葉上に一時的に静止する習性 (図5) のあることが判明してからは、各地から比較的多数の個体がもたらされるようになった。晴天時にそうしたポイントで探せば、姿を見つけるのも決して難しくないだろう。

日本には *Macroglipa* と *Stenoglipa* FRANCISCOLO の2亜属24種が知られている。前亜属は後食活動をまったく行っていないようだが、後亜属の種は腸内からシダの胞子が多数見つかることで、それを日常的に後食しているものと判断される (TAKAKUWA, 未発表)。両亜属は食性と後に述べるように



図5. オビハナノミ属の行動パタンの推測. ①: subgen. *Macroglipta*, ②: subgen. *Stenoglipta* (高桑, 1992).

活動習性を違えるばかりでなく、雄交尾器などの形質差も明らかである。

なお、本属の記載年はちょっと調べた限りでは、河野博士も中根博士も野村 鎮氏も記したことがなかったように思える。JUNK (1915) や FRANCISCOLO (1952) には 1857 年とされているが、LILJEBLAD (1945) や FRANCISCOLO (1965), BRIGHT (1986) が示したように 1859 年が正しい。

亜属への検索表

1. 各鞘翅の斑紋は基部に X 紋, 中央に環状紋, 端に紋をそれぞれ備えないか, あっても互いに連結し, もし連結しない場合でも色彩は灰黄色; 目は細毛を密生する; 小あごひげ末端節は通常の二等辺三角形状; 尾節板は多少とも太短く, 端は切断状 (図 6a-d); 雄交尾器はより幅広く, 側葉片の右片の付属枝端部は顕著にねじれる. ……*Macroglipta*  
 — 各鞘翅の斑紋は白〜灰黄白色で, 基部の X 紋, 中央の環状紋, 端の帯紋から構成され, これらは互いに連結しない; 目はしばしば細毛を密生しない; 小あごひげ末端節はふつう非常に幅広い二等辺三角形状; 尾節板は細長く, 端は鋭く尖るかほとんど尖る (図 6e-h); 雄交尾器はより細長く, 側葉片の右片の付属枝端部はふつう単純. ……*Stenoglipta*

Subgen. *Macroglipta* FRANCISCOLO

FRANCISCOLO, 1952, Ann. del. Civ. Mus. di St. Nat., 65: 330, 335 (type species: *Glipta d'urvillei* BOISDUVAL).

次亜属とは明瞭に区別できるが、前述したように多様な群を含み、いくつかのグループに分けられる。通常は樹冠ゾーンに活動していると推定されるが、日中の晴天時に限り、樹冠の開けた明るいギャップに好んでダイブする習性がある (図 5 の ①)。ギャップ内では低木あるいは林床のアカメガシワ、クワ類、クワズイモ、シダ類など、葉が大きくしかも水平方向に広がる葉上に一時的に静止し、しばしばスキップするように葉上を渡り移って、再

び樹冠方向へと飛び上がる。活動は一般に敏捷な種が多く、また葉上時の姿はしばしばアブ類によく似る。幼虫は朽ち木への産卵例は稀でないことから朽ち木食と考えられ、さらに台湾ではオキナワマツを加害したという報告まである。日本産は未記載種を含む次の 18 種が知られており、種としては出尽くした感もあるものの、1998 年になって初めて発見された種や採集例のきわめて少ない種もあることから、なお未知のものも存在も十分に考えられる。

種への検索表

1. 鞘翅は全体が黒色 (微毛紋の部分を除く)。褐色を帯びる場合は体が細長く 10.7 mm 以上で後肢は尾節板端に届かない. ……2  
 — 体は太短く, 10 mm 以下で後肢は尾節板端を越す; 鞘翅は基半あるいはほぼ全体が黄栗〜赤褐色. ……15
2. 鞘翅後方に帯紋をもつが端紋を欠く. ……3  
 — 鞘翅に端紋をもつか, 後方にも端にも紋を欠く. ……12
3. 体はより細くて大形 (体長 9-14 mm); 雄の尾節は幅より多少とも長く, 正中部は縦に深くえぐられる; 後肢は尾節板端を越えない. ……4  
 — 体はより太いが小形 (体長 6.5-9 mm); 雄の尾節は幅と同長かやや短く, 正中部は端半が浅くえぐられる; 少なくとも雄の後肢は尾節板端に届くか多少とも越える. ……8
4. 鞘翅は全体が多少とも褐色を帯びる. ……オオビハナノミ  
 — 鞘翅は全体が黒色 (微毛紋の部分を除く). ……5
5. 鞘翅は黒色で灰白色の紋だけをもつ. ……6  
 — 鞘翅はほぼ基半がチョコレート色の微毛で覆われ, さらに灰白色の紋をもつ. ……7
6. 鞘翅は中央辺に 1 対の環状紋をもち, 後方帯は波状, 会合部沿いに環状紋と連結する. ……アヤオビハナノミ  
 — 鞘翅は中央辺に環状紋をもたず, 後方帯はハ

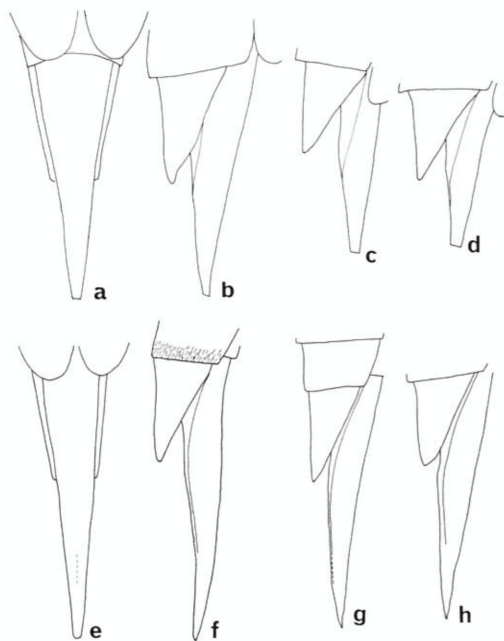


図6. オビハナノミ属の尾節板. a: オオオビハナノミ *Glipa (Macroglipta) shirozui* NAKANE, ♂ (背面), b: ditto (側面), c: クサマオビハナノミ *G. (M.) kusamai* TAKAKUWA, ♂ (側面), d: ditto, ♀, e: ノムラオビハナノミ *G. (Stenoglipta) nipponica* NOMURA, ♂ (背面), f: ditto (側面), g: イシガキオビハナノミ *G. (S.) ishigakiana* KONO, ♂ (側面), h: ditto, ♀.

- 状, 会合部沿いに環状紋と連結しない.  
 .....ザウテルオビハナノミ  
 7. 鞘翅中央前には1対の小さい黒色円形紋を現し, 後方の白帯は会合部に沿って前方へは延びない.  
 .....オガサワラオビハナノミ  
 — 鞘翅前方には1対の肩後方に達する大きな黒色長紋を現し, 後方の白帯は会合部に沿って前方へ延びる.  
 .....クサカベオビハナノミ (新称)  
 8. 体はより細型; 鞘翅中央前の帯は会合部沿いに基部紋と後方帯の両方と連結する. ....9  
 — 体はより太型; 鞘翅前方~中央前の環状紋は会合部沿いに基部紋と後方帯の両方と連結しない.  
 .....10  
 9. 背面の微毛紋は金色, 後方帯はジグザグ状; 尾節板はより太短く, 全体が白~黄色.  
 .....クサマオビハナノミ  
 — 背面の微毛紋は白~白黄色, 後方帯は直線状; 尾節板はより細長く, 端方は黒色.  
 .....オオシマオビハナノミ  
 10. 前脛節と中脛節は黒色; 鞘翅中央前方の環状紋を形成する後方帯はジグザグ状.  
 .....ニセコオビハナノミ  
 — 前脛節と中脛節上部は黄褐色を帯びる; 鞘翅前

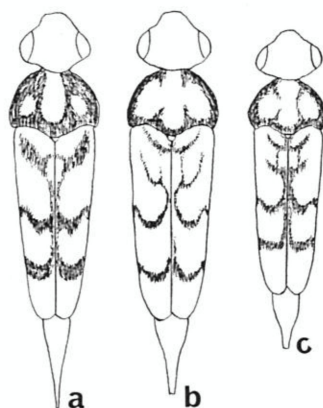


図7. オビハナノミ属3種の斑紋. a: タイワンオビハナノミ *Glipa (Macroglipta) formosana* Pic, b: サトウオビハナノミ *G. (M.) satoi yanma* TAKAKUWA, c: ウエノオビハナノミ *G. (M.) uenoi* TAKAKUWA (TAKAKUWA, 1986).

- 方の環状紋を形成する後方帯はほぼ弧状. ....11  
 11. 小楯板を被う微毛は暗色. ....コオビハナノミ  
 — 小楯板を被う微毛は白色.  
 .....マキハラオビハナノミ (新称)  
 12. 鞘翅の紋はきわめて不明瞭, 少なくとも後半に紋を欠く; 尾節板は非常に短く, 端は幅広く切断状. ....カルベオビハナノミ  
 — 鞘翅の紋は明瞭. ....13  
 13. 鞘翅基半に環状紋をもち, 端紋は2段.  
 .....イリエオビハナノミ  
 — 鞘翅中央に環状紋または円~四角形の紋をもち, 端紋は1段. ....14  
 14. 鞘翅の紋は灰黄白~灰黄色, 中央の紋は環状.  
 .....ワモンオビハナノミ  
 — 鞘翅の紋は濃い金色, 中央の紋は円~四角形状.  
 .....キンモンオビハナノミ  
 15. 体は細型; 鞘翅の紋は銀白色, 中央前方両側に1対の斜条紋を現す. ....ビックオビハナノミ  
 — 体はより太型; 鞘翅の中央前方両側に斜条紋を欠く. ....16  
 16. 鞘翅はほぼ全体が黄褐色; 鞘翅前方の外へ向かう紋は1対 (図7a); 尾節板は細長く, 長さは基部幅の約3倍. ....タイワンオビハナノミ  
 — 鞘翅は基半がほぼ褐色だが, 後半は黒色; 鞘翅前方の外へ向かう紋は2対; 尾節板はより短く, 長さは基部幅の約2.5倍以下. ....17  
 17. 体長7.0-10.1mm; 鞘翅後方帯は弧状, 会合部沿いに前方に延びても中央前のX紋に届かない (図7b); 尾節板はより長く, 基部幅の約2.3-2.4倍. ....サトウオビハナノミ  
 — 体長6.4-7.7mm; 鞘翅後方帯はほぼ直線状, 会合部沿いに前方に延びて中央前のX紋とつながる (図7c); 尾節板はより短く, 基部幅の約1.9-2.2倍. ....ウエノオビハナノミ

## 日本産コケムシ科 Cephenniini 族の分類学的諸問題

保科英人

コケムシ科 Cephenniini 族は、前胸と鞘翅の幅がほぼ同じという形質で特徴づけられる 1 群である。久松 (1985) によると、日本からは *Cephennium* 属の *C. japonicum* ムナビロコケムシという 1 種のみが知られている。ただし、本種に対しては、*Cephennodes japonicus* という学名が JACOBSON (1910), CSIKI (1919) と KURBATOV (1995) によって用いられている。また、KURBATOV (1995) によって 3 種が追加され、日本産本族は 4 種になった。

ムナビロコケムシ属 *Cephennodes* REITTER

ムナビロコケムシ *Cephennodes japonicus* (SHARP, 1886) (図 4)

*Cephennium japonicum* SHARP, 1886, 50-51; 久松, 1985, 240, pl. 43, Fig. 11.

*Cephennodes japonicus*: JACOBSON, 1910, 591; CSIKI, 1919, 17; KURBATOV, 1995, 947.

分布: 本州, 四国, 九州 (ただし, 記載時に記録された分布地域は長崎県のみ。上記の分布地域は久松 (1985) による)。

ニセムナビロコケムシ属 (新称) *Chelonoidum* STRAND

ミヤマニセムナビロコケムシ (新称) *Chelonoidum besucheti* KURBATOV, 1995 (図 5)

*Chelonoidum besucheti* KURBATOV, 1995, 954-955, 958.

分布: 四国 (愛媛県)。

イシヅチニセムナビロコケムシ (新称) *Chelonoidum loebli* KURBATOV, 1995 (図 1, 7)

*Chelonoidum loebli* KURBATOV, 1995, 954-956, 958.

分布: 四国 (愛媛県), 本州 (兵庫県)。

本種の基準産地は石鎚山である。なお、兵庫県は今回初記録であり、その採集データは次のとおりである。

6 頭, 兵庫県大屋町天滝, 28. V. 1998, 著者採集 (落葉中よりツルグレン装置で抽出)。

なお余談であるが、この天滝という滝は、NHK ドラマ「ふたりっこ」のタイトルバックとなったところらしい。昆虫の採集地としてはあまり有名ではないが、著者はここからタマキノコムシを 2 新種記録することができ、土壌甲虫の採集地としては好適であることをつけ加えたい。

バンドウニセムナビロコケムシ (新称) *Chelonoidum torosum* KURBATOV, 1995 (図 6)

*Chelonoidum torosum* KURBATOV, 1995, 957-959.

分布: 本州 (群馬県)。

以上が日本産 Cephenniini 族全 4 種である。上記のリストに従うなら日本産 *Cephennium* 属は存在しないことになる。

ここで SHARP が記載したムナビロコケムシにつ

いて一部問題を呈したい。上に示したとおり SHARP は、*Cephennium* 属として本種を記載しており、久松 (1985) もそれに従ったと思われる。しかし JACOBSON (1910) は、本種を *Cephennodes* 属に移しており、CSIKI (1919), KURBATOV (1995) は JACOBSON (1910) の措置に従っている。

ここでの問題はこの JACOBSON (1910) の処置が妥当かどうかということである。FRANZ & BESUCHET (1971) によると、*Cephennium* 属は、前胸背板後角に円形のくぼみ (原文の独語を日常日本語に直訳すればくぼ) が無いとされている。SHARP (1886) は本種原記載で、前胸背板に円形のくぼみがあると明記している。また、著者は現在、英国の自然史博物館から本種のタイプ標本を租借しているのであるが、調べてみるとやはり前胸背板に、明らかなくぼみを有していた。よって、FRANZ & BESUCHET (1971) に従えば、ムナビロコケムシは、*Cephennium* 属ではないことになる。さて、JACOBSON (1910) の処置によって本種が移された *Cephennodes* 属についてである。この *Cephennodes* 属は、REITTER (1883) によって記載された属である。ラテン語のこの属の原記載部分では、前胸背板後角に円形のくぼみに関しては何も触れられていないのが気になるが、ここでは取りあえず、ムナビロコケムシの学名が、*Cephennodes japonicus* が妥当であるとした。そうしないと次の議論が進まない。

微小土壌甲虫などでは珍しいことではないが、コケムシも確実な同定は、オス交尾器の観察に頼らざるをえない場合が多い。このムナビロコケムシのオス交尾器が図で示されたのは、KURBATOV (1995) が最初であると思われる (図 4 を参照)。当初、KURBATOV (1995) を見る限りでは、図示されたオス交尾器を持つムナビロコケムシの採集データはわからなかった。しかし、ムナビロコケムシのタイプ標本には、取り出されたオス交尾器と、BESUCHET のラベルが付してあった (ちなみに JACOBSON のラベルはない)。また、固定された交尾器の形質及び固定された方向は、KURBATOV (1995) の図と一致した。よって、KURBATOV (1995) が論文を書く際に扱ったムナビロコケムシの標本は、長崎産タイプ標本であると断定して良い。よって、KURBATOV (1995) の交尾器の図と一致するか否かで、ムナビロコケムシか否かを判定してもよいだろう。

さて、次は KURBATOV (1995) が記載したニセムナビロコケムシ属の 3 種についてである。この *Chelonoidum* ニセムナビロコケムシ属は、最初 *Cephennium* 属の 1 亜属 *Chelonodes* として、CROISSANDEAU (1893) によって記載された。その後、STRAND (1935) によって属に昇格し、現在では *Chelonoidum* STRAND として扱われている。CROIS-

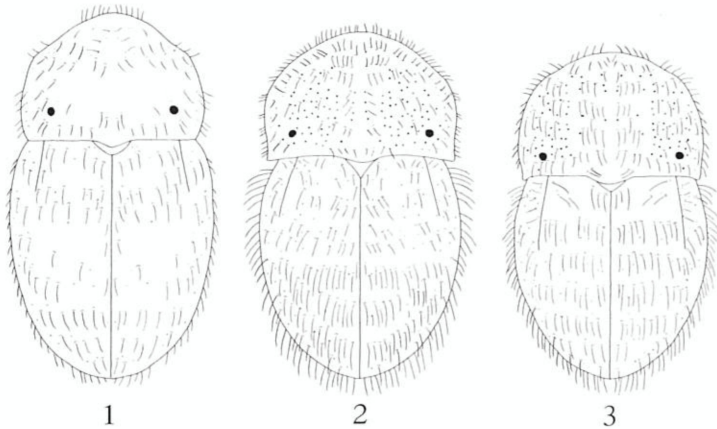


図1-3. 背面; 1. *Chelonoidum loebli*; 2. *C. sp. 1*; 3. *C. sp. 2*.

SANDEAU は 19 世紀末に一連のコケムシのモノグラフシリーズを世に送り出しており、現代の FRANZ と合わせて、コケムシ研究のうえで欠かせない人物である。

前述したように、*Cephennium* 属は、前胸背板後角に円形のくぼみを持たない。*Chelonoidum* 属は、FRANZ & BESUCHET (1971) に従うと、円形のくぼみを持つ。さて、ここである一つの疑問がわきあがってくる。*Cephennium* 属と *Chelonoidum* 属の区別は容易である。ならば、*Cephennodes* 属と *Chelonoidum* 属はどのように区別するのかという点である。まず、*Cephennodes* 属は、CROISSANDEAU のモノグラフでは扱われていない。かのコケムシの大家 FRANZ も、*Chelonoidum* 属と *Cephennodes* 属の新種は記載していない。FRANZ は、*Euconnus* 属などは、1 冊のバインダーに収まりきれぬほど記載しているのだが、そもそも *Cephennini* 族自体を他族と比べて、あまり扱っていないのである。また、*Chelonoidum* 属は、STRAND (1935) が扱ってから、KURBATOV (1995) まで、途中 FRANZ & BESUCHET (1971) などで軽く触れられているものの、ほとんど忘れられていた属なのである。著者の知る限り、*Cephennodes* 属と *Chelonoidum* 属の両者を比較して、「ここが違う」と述べているのは、KURBATOV (1995) のみである。もし著者が重要な文献を見落としていたら、御教示願いたいと思う。

さて、この KURBATOV (1995) は仏語で書かれており、語学に不得手な著者の読みとり不足もあるかもしれないが、とりあえずこの文献上で書かれた両属の違いを紹介したい。KURBATOV (1995) が述べている違いで最も使えそうな形質は、前胸背板側縁部の隆起である。原文には、前胸背板側縁に「carène」(日常日本語に直訳すれば船底部)があるかどうかで、この両属をわけるとしている。これは、久松(1985)の述べる「太く縁どられる」という形質のことであろう。*Cephennodes* 属にはこの隆起があり、*Chelonoidum* 属にはないと述べられている。し

かし、著者の見る限り、これには「？」がつく。例えば、*Cephennodes japonicus* ムナビロコケムシのタイプ標本は確かに、前胸背板側縁が太く縁どられ、隆起している。しかし、著者は *Chelonoidum loebli* (イシヅチニセムナビロコケムシ、以下イシヅチと略す) のタイプ標本はまだ見る機会を得ていないものの、基準産地で本種と思われるオスを採集し、オス交尾器も観察しているから、本種個体を有しているとの自信があるのだが、このイシヅチにも、前胸背板側縁に隆起はあるように見える。百歩譲って「indistinct」の

状態であり、「absent」ではない。そもそもムナビロコケムシとイシヅチは全体的にかなり似ており、別属であるといわれてもピンとこない。この他、日本産記載種・未記載種を調べてみたが、前胸背板側縁部の隆起が明らかに存在しない *Chelonoidum* 属は確認できなかった。つまり、この前胸背板の形質だけでは、両属を明確に区別するのは、難しいと思う。この他、KURBATOV (1995) は、paramere を含む交尾器の形質で両属を区別しているが、これも問題があるように思われてならない。これを次に述べたい。

その前に、この事柄を説明するために、未記載種を一部例に出したい。あまり sp. のまま和名を示して話しを進めるのはよくないと思われるが、説明のための方便であり、ご容赦願いたい。なお、仮和名は、今後の踏襲を期待するものではないことを、ここでははっきりと述べておく。

ヨナニセムナビロコケムシ(仮和名) *Chelonoidum sp. 1* (以下、ヨナと略す)(図 2, 8)

分布: 沖縄本島(与那覇岳)。

※仮和名は、採集された場所に由来する。

タメトモニセムナビロコケムシ(仮和名) *Chelonoidum sp. 2* (以下、タメトモと略す)(図 3, 9)

分布: 奄美大島。

※仮和名は、江戸化政期の文人、滝沢馬琴の読本「椿説弓張月」で、琉球王として描かれている、源鎮西八郎為朝に由来する。

オス交尾器を見ると、イシヅチとヨナは似ており(図 7-8)、これを見る限りヨナは *Chelonoidum* 属に含まれると思われる。そしてタメトモの交尾器は、ヨナとは似ても似つかぬものである。どちらかと言えば、ムナビロコケムシ(図 4) に似ているといってもよいかもしれない(観察された方向は違うのであるが)。しかし、ヨナとタメトモの外観は酷似しており(図 2-3)、この外観の類似は、ヨナとタメトモの 2 種が、イシヅチ(図 1) とヨナよりは近縁ではないかとも思わせるに十分である。実際、ヨナ

とタメトモの区別は、オス交尾器の観察なしでは、なかなか困難である。KURBATOV (1995) の記載した3種のオス交尾器には、全体的に「米粒型」という共通形質があり(図5-7)、ムナビロコケムシのそれとは明らかに毛色が違うものである。だからといって、前述したようにヨナとタメトモは外見は酷似しているので、ムナビロコケムシとタメトモを *Cephennodes* 属、残りの4種を *Chelonoïdium* 属とするのは少々無理があるような気がする。それに著者は、日本産には未記載種ながら後翅を欠くものが存在することを確認している。そうなれば、今後我が国周辺の島々で、特化した交尾器を持つ種が見つかる可能性がある。こうなれば、ますますオス交尾器の形質でもって、両属を区別するのは危険が伴うと考えられる。

以上、長々と述べてきたが、現在のところ著者は、*Cephennodes* 属と *Chelonoïdium* 属を有効かつ的確に分ける形質に巡り会っていない。今後の方針としては、欧州の古い文献を徹底的にあさり、必要に応じてタイプ標本の租借をしていくしかあるまい。その過程で、属の変更やシノニム等の処置も必要となるかもしれない。幸いなことに、日本産種に関しては、タイプ標本の所在ははっきりしているし、私個人の経験に関しては、租借しやすい状態にある。ちなみに前述したとおり、ムナビロコケムシのタイプ標本は、ロンドン自然史博物館にあり、KURBATOV (1995) の記載した3種のタイプ標本はジュネーブの自然史博物館にある。コケムシは「甲虫界に残された秘境」とも言われるが、その分類学的困難さは、華やかな桃源郷をめざすというよりは、203高地をめざすようなものだ。また、著者が述べても説得力がないかもしれないが、コケムシは1種ずつの記載をしていくとキリがなく、後世に災いを残すだけかもしれない。著者は何とかまとまった仕事をしていきたいと考えている。もしそのためのさまざまなご協力を、

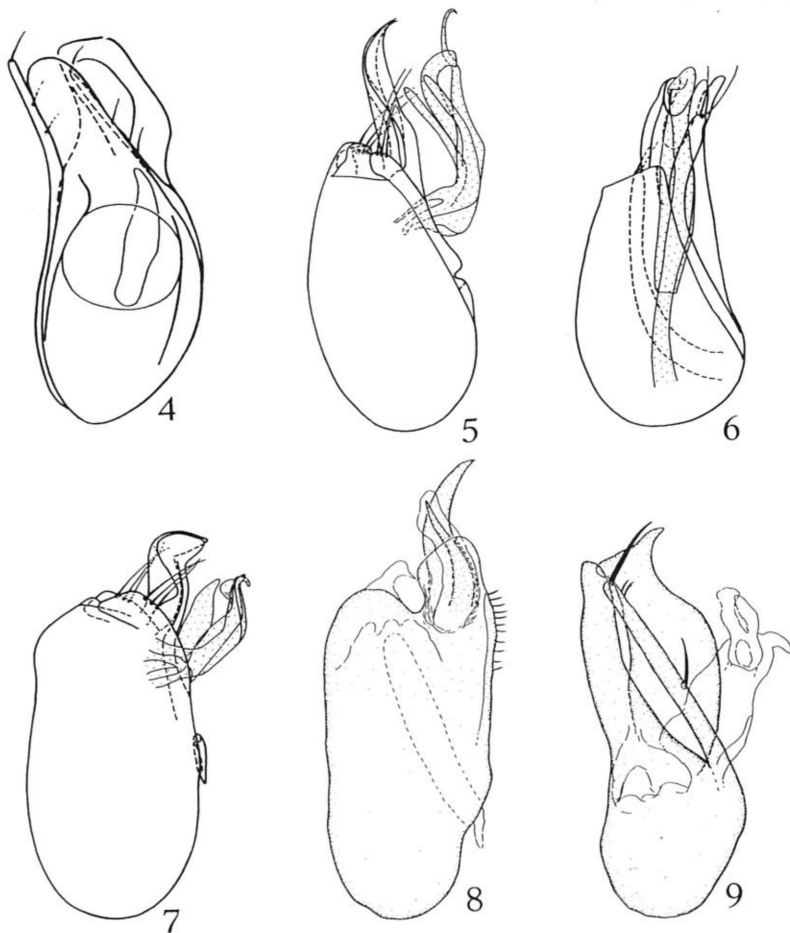


図4-9. オス交尾器; 4. *Cephennodes japonicus*; 5. *Chelonoïdium besucheti*; 6. *C. torosum*; 7. *C. loebli*; 8. *C. sp. 1*; 9. *C. sp. 2* (ただし、図4-7は KURBATOV (1995) を引用。図4は背面方向より観察したもの。図5-9は側面より観察したもの。この「背面」「側面」という方向は、KURBATOV (1995) に従ったもの。また、*C. sp. 1* は paramere を観察中に損失)。

各方面の方々にいただけるなら幸いである。

なお、末筆ながら、常日頃から貴重なご助言をいただいている国立科学博物館の野村周平博士、そしてムナビロコケムシのタイプ標本をお送りくださったロンドン自然史博物館の Martin BRENDLE 氏に、厚く御礼申し上げます。

参考文献

CROISSANDEAU, J., 1893. Scydmaenidae européens et circa-méiterranéens. *Ann. Soc. ent. Fr.*, 62: 409-442.  
 CSIKI, E., 1919. Scydmaenidae. In JUNK & SCHENKLING (eds.), *Coleopt. Cat.*, (70): 1-106. Berlin.  
 久松定成, 1985. 上野俊一他編原色日本甲虫図鑑, 2: 239-241, pl. 43, 保育社.  
 JACOBSON, G. G., 1910. Die Käfer Russlands und Westeuropas. Ein Handbuch zum Bestimmen der Käfer. Lief., 8: 561-640. St. Peterburg (in Russian).  
 KURBATOV, A., 1995. Sur les Euthiini et Cephennini (Col-

coptera, Scydmaenidae) de l'Extrême-Est de la Russie et du Japon. *Rev. suisse Zool.*, **102**: 943-959.  
 FRANZ, H. & C. BESUCHET, 1971. Die Käfer Mitteleuropas.  
 FREUDE, H. et al. (eds.) Goecke & Evers, Kiefeld, **3**: 271-303 (Scydmaenidae).  
 REITTER, E., 1883. Beitrag zur Pselaphiden- und Scydmaeniden-Fauna von Java und Borneo. *Verh. zool.-bot.*

Ges. Wien., **33**: 387-428.  
 SHARP, D., 1886. The Scydmaenidae of Japan. *Entomologist's mon. Mag.*, **23**: 46-51.  
 STRAND, E., 1935. Revision von Gattungsnamen palaearktischer Coleoptera. *Folia zool. hydrobiol.*, **7**: 282-299.

(九州大学農学部昆虫学教室)

## 長崎県西海沿岸島嶼のクワガタムシ採集記録

村山 聡 則

環境庁自然保護局の個人的な依頼を受け、長崎県西海沿岸の島嶼において、現在までに調査確認したクワガタムシを以下に報告する。

### 1. 大島(西彼杵郡大島町)

クワガタ *Dorcus rectus rectus*

4頭、横尾峠, 29. IV. 1999; 4頭、横尾峠, 30. IV. 1999; 1頭、百合ヶ岳, 30. IV. 1999; 1頭、馬込, 30. IV. 1999; スダジイ・コナラ・サクラ・アキニレなど、広葉樹の朽ち木より採集。

ヒラタクワガタ *Dorcus titanus pilifer*

1頭、横尾峠, 29. IV. 1999; アキニレの倒木より採集。

ネプトクワガタ *Aegus laevicollis laevicollis*

3頭、横尾峠, 29. IV. 1999; スダジイの倒木のフレーク部分より採集。

### 2. 蛸ノ浦島(西彼杵郡崎戸町)

クワガタ *Dorcus rectus rectus*

1♂, 5頭、蛸ノ浦, 29. IV. 1999; スダジイ・サクラ・カシ・アコウの朽ち木より採集。

ヒラタクワガタ *Dorcus titanus pilifer*

1頭、蛸ノ浦, 29. IV. 1999; カシ・アコウの朽ち木より採集。

ネプトクワガタ *Aegus laevicollis laevicollis*

10頭、蛸ノ浦, 29. IV. 1999; サクラ・カシの朽ち木の倒木接地部分および、倒木内より採集。

### 3. 崎戸島(西彼杵郡崎戸町)

マメクワガタ *Figulus punctatus*

2頭(集落内), 29. IV. 1999; 集落脇のウバメガシの枯れ枝より採集。

### 4. 寺島(西彼杵郡大島町)

クワガタ *Dorcus rectus rectus*

9頭、寺島郷, 30. IV. 1999; スダジイ・コナラ・カシの朽ち木より採集。

ヒラタクワガタ *Dorcus titanus pilifer*

3頭、寺島郷, 30. IV. 1999; コナラの朽ち木より採集。

### 5. 池島(西彼杵郡頼戸内町)

クワガタ *Dorcus rectus rectus*

2頭、池島郷, 30. IV. 1999; アキニレらしい朽ち木

より採集。

ヒラタクワガタ *Dorcus titanus pilifer*

2頭、池島郷, 30. IV. 1999; 同じ木より採集。

### 6. 松島(西彼杵郡崎戸町)

クワガタ *Dorcus rectus rectus*

1♂, 8頭、釜ノ浦, 30. IV. 1999; コナラ・カシ・アコウの朽ち木より採集。

ヒラタクワガタ *Dorcus titanus pilifer*

1頭、釜ノ浦, 30. IV. 1999; カシの土埋朽ち木より採集。

ネプトクワガタ *Aegus laevicollis laevicollis*

15頭、釜ノ浦, 30. IV. 1999; カシの土埋朽ち木と、コナラらしき半倒木朽ち木内より採集。

### 7. 江島(西彼杵郡崎戸町)

クワガタ *Dorcus rectus rectus*

1♂, 8頭、江島, 1. V. 1999; 1頭、江島, 2. V. 1999; カシ・スダジイの倒木より採集。

ヒラタクワガタ *Dorcus titanus pilifer*

1頭、江島, 1. V. 1999; クロマツの赤腐れ倒木よりネプトクワガタと共に採集。

ネプトクワガタ *Aegus laevicollis laevicollis*

20頭、江島, 1. V. 1999; 4♂8♀, 江島, 2. V. 1999; 2頭、遠見岳, 2. V. 1999; クロマツの赤腐れ倒木および、スダジイ内のフレークより採集。また、スダジイの倒木下の接地部から採集。

### 8. 平島(西彼杵郡崎戸町)

クワガタ *Dorcus rectus rectus*

11頭、黒崎郷, 2. V. 1999; 1頭、西風浜郷, 2. V. 1999; スダジイ・カシの倒木から採集。

ヒラタクワガタ *Dorcus titanus pilifer*

1頭、黒崎郷, 3. V. 1999; スダジイの土埋木より採集。

ネプトクワガタ *Aegus laevicollis laevicollis*

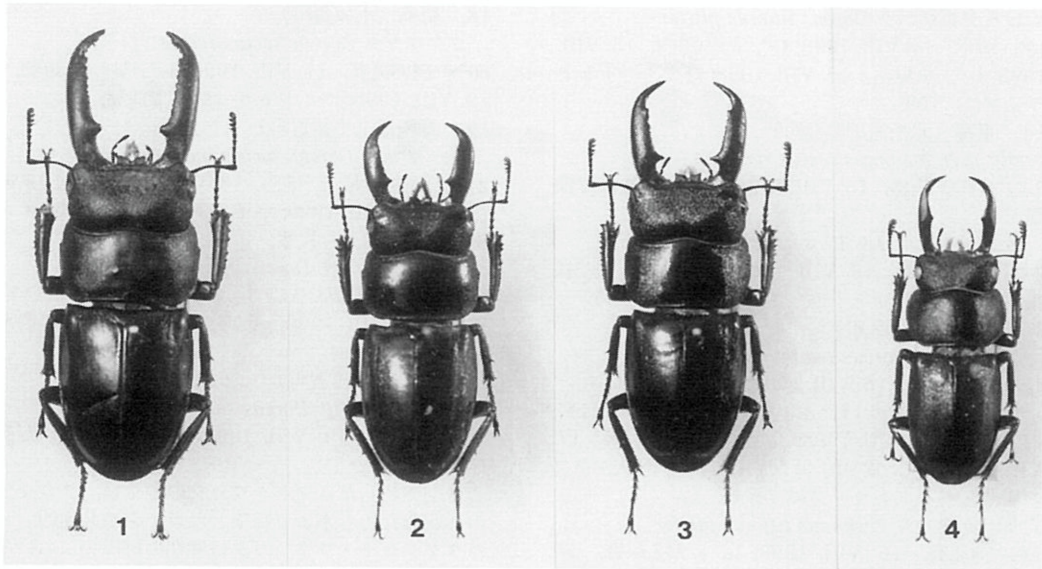
20頭、西風浜郷(白岳), 3. V. 1999; 3♂1♀, 23頭, 3. V. 1999; クロマツの腐材内より採集。

### 9. 黒島(佐世保市相浦町)

クワガタ *Dorcus rectus rectus*

1頭、相浦町田代, 3. V. 1999; 4頭、相浦町白鳥, 3. V. 1999; スダジイ・カシ・ムクノキ・アコウな





1: 大島産のヒラタクワガタ, 2: 的山大島産のヒラタクワガタ, 3: 野崎島産のヒラタクワガタ, 4: 野崎島産のコクワガタ.

ど、広葉樹の朽ち木より採集.

ヒラタクワガタ *Dorcus titanus pilifer*

7頭, 相浦町田代, 3. V. 1999; カシの朽ち木より採集.

ネプトクワガタ *Aegus laevicollis laevicollis*

3♀, 20頭, 相浦町白鳥, 3. V. 1999; 3頭, 相浦町古里, 3. V. 1999; スダジイの倒木接地部および内部, アキニレの赤腐れ倒木接地部およびその内部より採集.

10. 高島(佐世保市相浦町)

コクワガタ *Dorcus rectus rectus*

1頭, 相浦町大久保, 4. V. 1999; カシ・ムクノキの倒木より採集.

ヒラタクワガタ *Dorcus titanus pilifer*

1頭, 相浦町大久保, 4. V. 1999; ムクノキの倒木より採集.

ネプトクワガタ *Aegus laevicollis laevicollis*

5頭, 相浦町大久保, 4. V. 1999; クロマツの倒木接地部より採集.

11. 平戸島(平戸市他)

コクワガタ *Dorcus rectus rectus*

2♂, 平戸市主師町主師, 13. VIII. 1998; 1♂, 鏡川町赤坂, 1♂, 明の川内町大垣, 13. VIII. 1998; 1♀, 木引町, 14. VIII. 1998; 1♂, 中山町大越(中山峠), 14. VIII. 1998; 1♀, 草積町草積, 14. VIII. 1998; 1♂, 垂水町木場, 14. VIII. 1998; 1♂, 中野大久保町中山, 14. VIII. 1998; 1♀, 鏡川町赤坂, 15. VIII. 1998; 2♂, 岩の上町中の崎, 15. VIII. 1998; 1♂, 崎方町, 15. VIII. 1998; 1♂ 1♀, 草積町草積, 15. VIII. 1998; 1♂, 崎方町, 16. VIII. 1998; 1♂, 岩の上町中禰田, 16. VIII. 1998; 1♀, 岩の上町中の崎, 16. VIII. 1998; 宝亀町木場, 16. VIII. 1998; 島内の灯火, タブ

の樹液, ベイトトラップにて採集.

ノコギリクワガタ *Prosopocolius inclinatus*

2♂, 平戸市津吉町, 13. VIII. 1998; 3♂ 2♀, 平戸市主師町主師, 13. VIII. 1998; 1♂, 垂水町木場, 14. VIII. 1998; 2♂ 2♀, 岩の上町中の崎, 15. VIII. 1998; 1♂, 崎方町, 15. VIII. 1998; 1♂, 木引町, 16. VIII. 1998; 1♀, 岩の上町中禰田, 16. VIII. 1998; 1♂ 1♀, 岩の上町中の崎, 16. VIII. 1998; 2♂, 垂水町, 16. VIII. 1998; 島内の灯火, タブの樹液より採集.

ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus*

1♀, 垂水町木場, 13. VIII. 1998; 1♂, 垂水町木場, 16. VIII. 1998; 島内の灯火にて採集.

ヒラタクワガタ *Dorcus titanus pilifer*

1♂, 岩の上町中の崎, 15. VIII. 1998; 1♂, 草積町草積, 15. VIII. 1998; 1♂ 1♀, 宝亀町木場, 15. VIII. 1998; 島内の灯火および, タブの樹液, ベイトトラップで採集.

12. 生月島(平戸市生月町)

コクワガタ *Dorcus rectus rectus*

1♀, 神ノ川, 13. VIII. 1998; 1♂, 金比羅山, 14. VIII. 1998; ベイトトラップにて採集.

ノコギリクワガタ *Prosopocolius inclinatus*

1♂ 1♀, 南免, 15. VIII. 1998; ベイトトラップにて, ヒラタクワガタ *Dorcus rectus rectus*

1♀, 大久保, 14. VIII. 1998; 自販器の灯火にて採集.

13. 的山大島(北松浦郡大島村)

コクワガタ *Dorcus rectus rectus*

2♀, 前平, 14. VIII. 1998; 1♂ 2♀, 前平, 15. VIII. 1998; 1♂ 1♀, 的山川内, 15. VIII. 1998; 3♂ 1♀, 西宇土, 15. VIII. 1998; 2♂ 3♀, 魚見岳, 15. VIII. 1998; 灯火, タブの樹液, ベイトトラップにて採集.

ヒラタクワガタ *Dorcus titanus pilifer*  
1♂, 前平, 14. VIII. 1998; 1♂, 的山川内, 15. VIII. 1998; 1♂, 魚見岳, 15. VIII. 1998; 灯火, ベイトトラップにて採集.

## 14. 度島(北松浦郡度島町)

コクワガタ *Dorcus rectus rectus*  
2♂♂ 2♀♀, 飯盛, 15. VIII. 1998; タブの樹液にて採集.

ノコギリクワガタ *Prosopocolius inclinatus*  
2♂♂ 1♀, 飯盛, 15. VIII. 1998; タブの樹液にて採集.

## 15. 宇久島(宇久町)

コクワガタ *Dorcus rectus rectus*  
1♂, 大久保郷, 16. VIII. 1998; 2♂♂ 1♀, 城ヶ岳, 16. VIII. 1998; 1♂ 1♀, 木場郷, 16. VIII. 1998; 1♀, 梅ノ木郷, 16. VIII. 1998; 2♂♂ 1♀, 大久保郷, 17. VIII. 1998; 1♂, 城ヶ岳, 17. VIII. 1998; 灯火, タブの樹液, ベイトトラップにて採集.

ヒラタクワガタ *Dorcus titanus pilifer*  
1♀, 神浦郷, 16. VIII. 1998; 1♂, 大久保郷, 16. VIII. 1998; 2♂♂, 城ヶ岳, 16. VIII. 1998; 灯火, ベイトトラップにて採集.

## 16. 寺島(宇久町寺島郷)

ネプトクワガタ *Aegus laevicollis laevicollis*  
5頭, 寺島郷, 5. V. 1999; クロマツの赤腐れ倒木内より採集.

## 17. 小値賀島(小値賀町)

コクワガタ *Dorcus rectus rectus*  
2♂♂ 2♀♀, 番岳, 17. VIII. 1998; 1♂ 2♀♀, 番岳, 18. VIII. 1998; 1♀, 笛吹郷, 18. VIII. 1998; 2♂♂ 2♀♀, 笛吹郷, 19. VIII. 1998; 幼虫4頭, 番岳, 5. VIII. 1998; 灯火, クヌギの樹液, ベイトトラップにて採集. 材採集では, カシの褐色倒木より採集.

ヒラタクワガタ *Dorcus titanus pilifer*  
1♂, 番岳, 17. VIII. 1998; 1♀, 笛吹郷, 17. VIII. 1998; 1♂, 大浦, 18. VIII. 1998; 1♂, 番岳, 18. VIII. 1998; 灯火, クヌギの樹液, ベイトトラップにて採集.

## 18. 斑島(小値賀町)

コクワガタ *Dorcus rectus rectus*  
6♂♂ 1♀, 斑郷, 17. VIII. 1998; 4♂♂ 3♀♀, 斑郷, 19. VIII. 1998; ベイトトラップにて採集.

## 19. 野崎島(小値賀町)

コクワガタ *Dorcus rectus rectus*  
2♀♀, 幼虫4頭, 二半岳, 18. VIII. 1998; 1♂ 1♀, 野首郷, 19. VIII. 1998; ベイトトラップ, ツバキ・スダジイの倒木より採集.

ヒラタクワガタ *Dorcus titanus pilifer*  
1♂, 幼虫1頭(♀), 二半岳, 18. VIII. 1998; 1♂, 野首郷, 19. VIII. 1998; ベイトトラップ, タブの倒木より採集.

## 20. 大島(小値賀町)

ヒラタクワガタ *Dorcus titanus pilifer*  
1♂, 大島郷, 19. VIII. 1998; 側溝に落ちていた個体.

今回確認したネプトクワガタの多くは, クロマツの赤腐れた朽ち木より採集した点でやや共通的. ヒラタクワガタ・コクワガタは春期の材採集においては, 広葉樹各種の朽ち木より採集し, ヒラタクワガタに関しては江島で, アカマツから得た点がやや珍しいことといえる.

なお, ヒラタクワガタについては, 馬場(1999)のゴトウヒラタクワガタの報告があるが, 壱岐・対馬との微妙な地域にあるため, あえて *Dorcus titanus pilifer* としておく. 細かい相違点などについては, 今後のさらに詳しい調査が必要だと思われる.

末筆ながら, 発表にあたって適切なご指導をいただいた清水敏夫氏に厚く感謝申し上げます.

## 参考文献

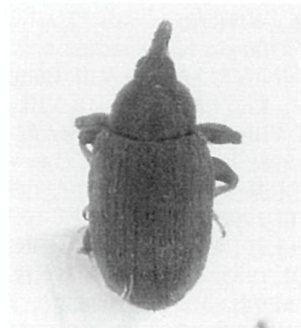
- 馬場 勝, 1999. 月刊むし, (340): 19-23.  
池崎善博, 1988. 同上, (206): 38.  
伊藤主計, 1987. 同上, (192): 40.  
楠井喜久, 1996. 同上, (304): 50.  
村山聡則・清水敏夫, 1998. 同上, (328): 102-104.  
小野和久, 1995. 同上, (298): 31-32.

(群馬県前橋市)

## ○岐阜県におけるムシクサコバンゾウムシの記録

ムシクサコバンゾウムシ *Gymnaetron miyoshii* MIYOSHI はムシクサの子房に虫えいを作り, 幼虫はここで生育するという変わった習性のゾウムシである. もともと個体数が少ないのか, 筆者は前に岐阜市で1頭採集しているにすぎない. 今回再び岐阜市内で採集したので本種の記録を調べたところ, 岐阜県未記録種となっていた. それで前の記録とともに報告しておく. いずれも草本類のスーピングで採集したものである.

1頭, 岐阜市山泉岩, 8. VI. 1983, 野平照雄採集;  
1頭, 岐阜市長良川堤防藍川橋付近, 16. V. 1998, 野平照雄採集.



(岐阜県各務原市, 野平照雄)

日本産 *Tympanophorus* 属 (ハネカクシ科) について

新井志保

ハネカクシ科の *Tympanophorus* 属はハネカクシ亜科の *Xanthopygina* 亜族に属し、小腮鬚第4節が末端に向けて狭まらないこと、下唇鬚第3節は半球状を呈しその末端は裁断され、中央がえぐれること、下唇基節の剛毛は3対であること、前胸背板の長毛は2対であることなどによって近縁の *Agelosus* 属から区別される。日本では1907年に BERNHAUER によって記載された *T. sauteri* カツヤケシアバタハネカクシと SHIBATA (1975) によって記載された *T. hayashidai* ツヤケシアバタハネカクシの2種が知られているが、どちらも記録の少ない種である。筆者は山梨県より *T. hayashidai* を1頭採集しており、かつ両種の未発表標本を検査する機会を得たので併せて報告する。

1. *T. sauteri sauteri*: 1頭, 鹿児島県高千穂岳, 26. VIII. 1969, S. NAKATA 採集, 渡辺泰明保管.
2. *T. hayashidai*: 1頭, 大分県九重山, 15. VII. 1973, S. NAKATA 採集, 渡辺泰明保管.
3. *T. hayashidai*: 1♂, 山梨県丹波山村後山溪谷 (三条沢) 標高 1,050 m, 8. VI. 1997, 筆者採集, 岸本年郎 保管.

両種の上記の記録を含めた既知産地のうち、*T. sauteri* の type-locality で、詳しい場所がわからない“Onsen”を除いてまとめると図1のようになる。また、SHIBATA (1975) が *T. hayashidai* の paratypes の産地の1つに Mt. Sakawa, Iwate Pref. としたのはラベルの読み間違いで Mt. Sukawa (岩手県一関市須川岳) であるのでこの機会に訂正しておく。

この結果、*Tympanophorus* 属の記録は関東・九州に多いが、2種の分布を比較しても地域的な差異



図2. *T. sauteri sauteri*



図3. *T. hayashidai* (paratype)

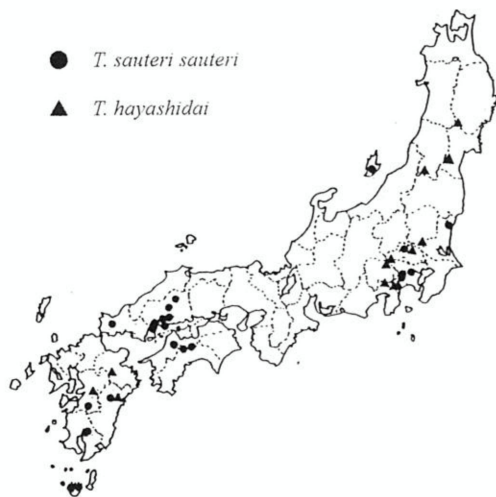


図1. *Tympanophorus* 属の既知産地.

はほとんど見られない。しかし岡本(1990)や柴田他(1997)等によると *T. sauteri sauteri* は落葉下より得られることが多く、かつ山地・平地の両方で得られている。一方、*T. hayashidai* も落葉下で採集されるが、原記載には富士山の針葉樹林帯に設置されたベイトトラップで得られた例が記録されている。なお筆者が *T. hayashidai* を採集したのは沢沿いの林道脇のガレ場であった。これらを総合すると、*T. sauteri sauteri* に比べて、本種は主として山地帯に生息しているようである。これまでの記録をまとめると、*T. sauteri sauteri* は本州 (関東以西)、佐渡、四国、九州、屋久島から、*T. hayashidai* は本州 (東北以南)、九州から報告されている。今後両種とも関西地方からの記録が予想される。

末筆ながら、日頃からご指導頂き、文献の入手、貴重な標本のデータの発表を快く御承諾下さった東京農業大学昆虫学研究室の渡辺泰明博士、また本報

告にあたりいろいろ御教示頂いた町田市の柴田泰利氏、東京農業大学昆虫学研究室の岸本年郎博士、採集に同行して頂いた立正大学経済学部の青木重幸博士、東京農業大学昆虫学研究室の黒須詩子博士、埼玉県嵐山町の豊田浩二氏に厚く御礼申し上げます。

## 引用文献

- 比婆科学教育振興会編, 1997. 広島県昆虫誌 I. 636 pp.  
三好和雄, 1988. 山口県産昆虫目録. 鞘翅目 Coleoptera. 山口県の昆虫, pp. 126-187.  
NAOMI, S., 1983. Revision of the Subtribe Xanthopygina (Coleoptera, Staphylinidae) of Japan II. *Kontyû, Tokyo*, 51: 47-55.  
直海俊一郎, 1996. 熊本県のハネカクシ科. 熊本昆虫同好会会報, 41(3): 3-32.  
小田 博, 1996. 埼玉県産ハネカクシ科分布資料 [9]. 寄せ蛾記, (78): 2066.  
岡本 巖, 1988. 広島県島嶼部のハネカクシ類. 広島虫の会会報, 29: 13-22.  
———, 1998. 広島県のハネカクシ類 (第4報). 広島虫の会会報, 37: 49-52.  
———・白石正人・山本栄治, 1993. 愛媛県のハネカクシ (2). 北九州の昆虫, 40: 171-179.

- 大川秀雄, 1997. 渡良瀬遊水池の甲虫. 渡良瀬遊水池の動植物実態調査報告書 (昆虫編), pp. 68-71.  
SHIBATA, Y., 1975. Notes on the genus *Tympanophorus* NORDMANN (Coleoptera, Staphylinidae) from Japan and Taiwan, with descriptions of a new species and a new subspecies. *Kontyû, Tokyo*, 43: 20-28.  
柴田泰利, 1986. 神奈川県産ハネカクシ. 神奈川虫報, (80): 1-9.  
———・渡辺 崇, 1997. ハネカクシ科. 丹沢大山自然環境総合調査報告書, 丹沢山地動植物目録. pp. 196-205.  
敦見和徳, 1991. ハネカクシ科 (Staphylinidae). 高萩の動物, pp. 441-456.  
渡辺 徳, 1989. 宮城県産甲虫目録. 宮城県昆虫誌 II: 宮城県の甲虫, pp. 27-323.  
渡辺泰明・馬場金太郎, 1981. 佐渡島のハネカクシ. 越佐昆虫同好会会報, (52): 23-32.  
吉田進, 1998. 町田市でカクツヤケシアバタハネカクシを採集. 神奈川虫報, (122): 49.

(東京農業大学)

## ○ウスキボシハナノミの山形県からの記録

ウスキボシハナノミ *Hoshihananomia kurosai* CHŪJŌ et NAKANE は本州では福島県 (高桑, 1978; 横井・田添, 1989; ほか) 以南から知られていたが, 筆者の手元にはさらに北に位置する山形県産の標本があるので報告しておきたい。

1♀, 山形県白鷹町荒砥, 8. VII. 1990, 加藤和彦採集。

なお, より北に位置する分布地としては北海道奥尻島 (高桑, 1993) が知られている。

## 引用文献

- 高桑正敏, 1978. 甲虫ニュース, (43): 8.  
——— 1993. 同上, (104): 4.  
横井直人・田添京二, 1989. 月刊むし, (216): 41.  
(神奈川県立生命の星・地球博物館, 高桑正敏)

## ○新潟県におけるホソキマルハナノミの記録

ホソキマルハナノミ *Elodes elegans* YOSHITOMI は本州から九州にかけての主に太平洋岸の地域から記録されてきた種である。筆者らは、日本海側で採集された標本を検したので報告する。

1♂, 新潟県飯豊山, 19-23. VII. 1967, 滝沢春雄採集・吉富保管。

本種の分布は西南日本に偏っており、近縁種のムネモンマルハナノミ *Elodes kojimai* NAKANE が北方系であるのと対照的である。この2種は幼虫の生息場所が同じであるため、異所的分布をしていると考えられる。ムネモンマルハナノミの分布の南限は、現在のところ岩手県南部部であるので、どの辺りが両種の分布の境界であるのか興味深い。(環境指標生物, 吉富博之; 東京農業大学, 滝沢春雄)

## ◇原稿大募集◇

採集シーズンも折り返し点にさしかかってきましたが、前半戦の成果はいかがでしたか。おそらく、珍しい甲虫やおもしろい分布など記録しなければならぬことがたくさんあるのではないのでしょうか。あるいは、気になる生態なども原稿にして下記までお送りください。

〒196-0012 東京都昭島市つつじが丘2-6-22-806, 甲虫ニュース編集幹事 妹尾俊男宛  
投稿の際, 1行23字にそろえ, プリントアウトした原稿とフロッピーをお送りください。

## 甲虫ニュース 第126号

発行日 1999年6月30日  
発行者 大林延夫  
編集者 妹尾俊男  
発行所 日本鞘翅学会 〒169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1 国立科学博物館分館動物研究部昆虫第二研究室 ☎ 03-3364-2311  
印刷所 (株)国際文献印刷社

## 昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号, 有頭ダブル針も出来ました。その他, 採集, 製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

振替 00130-4-21129

電話 (03) 3409-6401 (ムシは一番)

FAX (03) 3409-6160

(カタログ贈呈) (株)志賀昆虫普及社